

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2021年11月15日】第103号



元気に登校

11月1日(月)から4日(木)の4日間にわたって行われた入学試験にともない、休校だった農大稲花小の子どもたちも、11月8日(月)から再び元気に登校してきました。休校は家庭での学習の期間です。漢字や計算などの習熟に努めたことでしょう。今週、3年生は理科のテストも行われました。本校では宿題は多くありませんが、自分の学びを自分で振り返り、力が不足しているところについては自分で復習する必要があります。低学年ではまだまだ、保護者の助けが必要ですが、中学年、高学年までに、家庭での学習について習慣づけていくことを期待しています。ノートや単元テストなどを確かめ、できなかったところをできるようになるまで練習するかしないか、それだけでも学力に違いが出てきます。保護者の皆様には合わせて、ノートや教科書、また筆箱など文具、運動靴、実習着の状態の点検もお願いしています。授業に集中して取り組める状態になっていることが大切です。

今月の標本

農大稲花小では毎月、(一財)進化生物学研究所から昆虫標本をご提供いただき、子どもたちに向けて展示しています。今月の標本は、びっくりするくらい巨大なトンボとナナフシの仲間です。



登校してきて新しい標本が展示されているのに気づいた子どもたちの目は、標本に釘付けになります。図書室では、トンボの本などを展示し、子どもたちの興味・関心に応えています。今週はこのほか、エンドウとソラマメの芽生えの様子も展示されました。

新米をみんなで

11月11日(木)は農大稲花小収穫祭給食として、一年生が田植えした田奈(横浜市青葉区)の田んぼのお米をおにぎりにしていただきました。副菜は、金目鯛の西京焼き、ハウレンソウの柚子おなか和え、揚げとナガイモのみそ汁、そして柿、牛乳です。みそ汁には、稲花小の畑で1年生が栽培しているダイコンが入っており、葉も柚子おなか和えに使われました。子どもたちは食べ物を作ってくれた方々、運んでくれた方々、調理してくれた方々に感謝しながら、給食を味わいました。



本来なら、農大稲花小の子どもたちの稲や野菜作りを支援してくださった方々をお招きして、子どもたちと一緒に味わっていただきたいところです。しかし、新型コロナウイルス防止の観点から黙食を続けているため、昨年に続いてそれができませんでした。来年こそ、子どもたちの笑顔とともにおいしく収穫祭給食が味わえることを願っています。

炊飯学習

11月12日(金)、1年生は家庭科室で炊飯を行いました。グループごとに田奈のお米を洗い、水を測って炊飯器にセットするという簡単なことですが、三角巾とエプロンを身に付けた1年生は真剣そのもの。炊き立てのご飯を給食と同じように配膳し、それぞれが持参した副菜とともにおいしく味わいました。いつもより多い量のお米を炊いたのですが、子どもたちは見事な食欲を示し、「おいしいね」「おいしかった～」の声が聞こえる昼食の時間となりました。

東京農業大学稲花小学校

校長 夏秋 啓子